

やすらぎだより

3
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

コラム第129号

「ああチアリーディング」

施設長 植田 誠



昨年桜咲く頃での大阪、とあるスポーツイベントで感銘を受けた。元気な女子大生が‘ピョンピョン’と飛び跳ねながら、甲高い声でオヤジ達を元気にさせる、余興のイメージで見ていた私はやがて食い入る様にその場の観衆とともに大きな手拍子で感動の輪に入っていた。

「応援のための余興ではなく、これは競技スポーツだ」
イメージが変わるのに時間はかからなかった。本物のチアリーディングに触れた最初の瞬間だった。

毎年、奈良県老人福祉施設協議会では研究会議と称し職員が一同に会する機会を持つ。数百人が集まる場、私はその中心的な役割を仰せつかった。企画が順調に進む中、夜の情報交換会でのイベントを考え意見交換する最中、思わず口に出た。

「イベントは私に一存でよろしいでしょうか」
‘渡りに船’ではないが、他に重要な審議事項が残り時間も差し迫る中、皆に異論はなかった。

頭に浮かんだのはあの春うららかな候に見た感動、
「あれなら、きっと盛り上がるに違いない」
会場が万雷の拍手で包まれる姿が脳裏に浮かんだ。地元からが大切と、県内のある大学チアリーディング部に依頼した結果、5名の出演が決定する。

2月9日、夜の情報交換会には170名余りが参加された。当日急用で4名出演となるが、少ない方が舞台狭しと‘ピョンピョン’動けるはず、不安を打ち消す勝手な予測をしかないと自らに言い聞かせる。

スピーチ、食事、観談と進みいよいよその時、事前にはお伝えしていないサプライズ、目前に現れた元気なコスチュームに皆は心奪われる。10分間の出演中、‘ピョンピョン’は無くアクロバティックなスポーツとも言えず、昨春とのギャップを感じながら、不慣れな演技は終わった。

賛否両論が耳に届く。‘一存’の責任を少し感じてはいるが、しかし後悔はしないでいよう。これもまたチアリーディング。
きらびやかな宴会場は、元気あふれる余韻に包まれていた。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 天理市ひとり暮らし
高齢者世帯等見守り事業
- 低所得高齢者等住まい・
生活支援モデル事業